



志布志市生物多様性地域戦略の概要

生物多様性の主流化を図り、新たな「自然と共生する社会」の実現を目指して
～「共生」と「循環」そして「継承」～

第1章 生物多様性とは何か

いろいろな生き物がいて、それらがつながり合って生活していることを「生物多様性」と言います。なぜ、生物多様性を守らないといけないか。それは、生物の多様性が失われると、4つの生態系サービスが損なわれ、自然の恵みを得続けることが困難になるからです。

生態系サービス(自然の恵み)

- ①基盤サービス
- ②調整サービス
- ③供給サービス
- ④文化的サービス

生物多様性の危機

- 第1の危機 開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
- 第2の危機 里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下
- 第3の危機 外来種や化学物質などの持ち込みによる生態系のかく乱
- 第4の危機 地球環境の変化による危機

第2章 志布志市を見つめる

- 課題1 生物多様性の言葉が浸透していません
- 課題2 開発による種の減少、生息・生育地の減少があります
- 課題3 広葉樹林の減少、里地里山などの手入れ不足があります
- 課題4 特定外来生物の侵入が見られます
- 課題5 気候変動への適応が必要です

第3章 地域戦略を考える

令和3年度から令和12年度までの10年間の計画です。

生物多様性の主流化を図り新たな「自然と共生する社会」の実現を目指します
＜10年後の姿 ～5つの将来像～＞

- ①市民誰もが、生物多様性の重要性を理解し、行動しています
- ②重要地域を保全し、自然のつながりを取り戻しています
- ③生物多様性の情報を蓄積・共有し、生態系が守られています
- ④生物多様性を支え、生物多様性に支えられた環境文化を継承しています
- ⑤生物多様性の向上につながる産業活動やライフスタイルに転換しています

第4章 地域戦略を進める

5つの将来像を実現するため、各主体（市民、事業者、各種団体、行政機関）の連携と協働の下、志布志市生物多様性地域戦略を推進するため、「志布志市生物多様性センター」（仮称）を設置し、次の5つの指標の進捗に努めます。

指標名	指標
指標1「生物多様性の認知度」	80%
指標2「汚水処理人口普及率」	96.0%
指標3「市民が主体となった野生動植物モニタリング数」	5種
指標4「『聞き書き』に取り組む団体数」	3団体
指標5「エコツーリズム実施事業者数」	1団体

生物多様性の保全はSDGs（持続可能な開発目標）の根幹

